

平成30年度『北海道高等学校学力向上実践事業』 学力テスト及び北海道高等学校学習状況調査結果について

北海道札幌啓成高等学校長 中西 勝 範

- 1 【調査対象】 平成30年度1学年（平成31年3月実施）
（調査数：本校理数科40名、普通科279名 合計319名）

2 【分析結果】

（1）日常の学習について

授業がある平均1日当たりの学習時間については、全道平均を上回っているが、「まったく、ほとんどしない」「30分未満」は全体の26.5%（昨年度31.4%）である一方、「1時間以上3時間未満」は全体の71.9%（昨年度43.1%）である。約3割の生徒が十分な学習時間が取れない状況がある一方、1時間以上学習している生徒が7割を超え、2極化の傾向が懸念される。なお、「1時間以上3時間未満」と回答している生徒の割合は増加している。また、休日1日当たりの学習時間は、「まったく、ほとんどしない」「30分未満」は、15.3%（昨年度19.3%）であり、授業日に対して減少しているが、家庭学習時間の確保が大きな課題である。

また、平日の読書について、「まったく、ほとんどしない」「10分未満」を合わせると全体の70%を占める。豊かな人生を経験する一助になる読書経験を増やすよう促したいところである。

（2）「主体的・対話的で深い学び」に向けて

「今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は合わせて85.6%である。昨年度は74.1%であり、10ポイント強の割合が上がっている。上記の学習活動も取り入れ、今後もさらに本校が目指す「何事にも幅広く興味・関心を持ち、主体的に取り組む資質・能力を有する人」の育成を図っていきたい。

（3）インターネットの利用について

インターネットの利用について、「学習の目的外で、平均1日にどのくらいインターネットを利用しますか」という質問に対して、3時間以上利用すると回答した生徒の割合は、48.5%（昨年度41.1%）と前年度よりも増加しており、約半数が3時間以上は利用している状況である。また、インターネットをどのような情報通信機器で利用しているかという質問（複数回答）に対して、生徒の95.2%は「スマートフォンを利用している」と回答している。そして、「インターネットを利用するために、犠牲にしている時間はありますか」という質問に対しては、生徒の64.5%が「勉強の時間」、46.6%が「睡眠時間」と回答している。本来の学業に向けてどう考えて行くべきなのか、生徒－学校－保護者の3者でしっかりと話合う必要があると考える。